

# 週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

&lt;先週の説教から&gt;

『詩編 43 - なぜうなだれるのか、魂よ』  
武田真治牧師

詩編 43:1-5 ヨハネ 4:19-26

前日も申しましたが、この詩編43篇と42篇はもともとは1つの詩編だったと言います。では、どうして二つに分けられているのかと言えば、その内容によって分けられている、区切りが付けられたのだらうと考えられています。

詩編42篇はその最初の言葉である「涸れた谷に鹿が水を求めるように、神よ、わたしの魂はあなたを求めよ。」がとても有名ですが、ただ、この詩編全体はこの作者の思いや考え、思い出を述べている“独白”に終始しています。それに対して、詩編43篇はその1節から「神よ、あなたの裁きを望みます。わたしに代わって争ってください。よこしまな者から救ってください。」とありますように“祈り”から始まっています。続く3節も「あなたの光とまことを遣わしてください。」との“祈り”です。ここが二つの詩編の大きな違いだと言います。ただ、両方とも作者は同じ人物であり、その作者が置かれている状況も43篇と変わっていません。そのことは2節に「なぜ、わたしを見放されたのか。なぜ、わたしは敵に虐げられ、嘆きつつ行き来するのか。」とあり、これは42編の10節の繰り返しだからです。しかし、42篇では、独り言と自問自答、或いは過去の栄光を思い出しては嘆いていた作者が、神様へと直接“祈る”ようになったということは、この人自身の“心の方向”が変わった証拠と言います。

どのように変わったのか？ 3～4節には「聖なる山、あなたのいますところに、わたしを伴ってくださるでしょう。神の祭壇にわたしは近づき、わたしの神を喜び祝い、琴を奏でて感謝の歌をうたいます。」と述べています。これは明らかに《未来＝将来への希望》を語っています。今まで、過去を懐かしみ、今の不遇を嘆いていた作者が、これからの自分を

考えるようになったのはなぜか？ それこそが《祈りによる変化》と言い得るのでしょう。“祈る”ことで神様を見上げ、これからの自分について、前向きに思いを馳せることが出来たのでした。まさに《祈りの力》と言います。その転換点42篇と43篇の区切りとなっているのです。

そして3節の“光とまこと”を遣わして欲しいという祈りは「彼らはわたしを導き、あなたのいますところに伴ってくれる」と述べています。あたかも“光とまこと”が各々、人間であるかのように、自分の側に来て『こっちに行け』と自分の行くべき道を“照らし、正して”くれるからと。これこそイエス様とその聖霊ではないでしょうか！私たちを《神様のいます所＝礼拝とみ国》へと導いてくださるですから！

\*\*\*\*\*

## 【今週の集会】

\*聖書研究・祈禱会 I. 6月5日(水) 20:00  
II. 6月6日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答  
祈禱主題: 花の日・こどもの日を覚えて  
担当者: (水) 栗原 (木) 西尾  
祈りに覚える人: 飯島さん 飯田さん

## 【教勢報告】

主日礼拝 男18 女56 計74  
祈禱会 I. II. 休会  
日曜学校 幼稚科3 小中科9 計12  
ひつじ雲の会(5月28日(火)) 男0 女5 計5  
\*\*\*\*\*

## 【次週主日礼拝】 6月9日(日)

聖書: マタイによる福音書 6:25～31  
説教: 「花の日合同礼拝ーとりや花のように」  
武田真治牧師

讃美歌: 490(子供137)、32(子供27)、182(子供43)、60(子供58)、533(子供129)、24(子供25)

## 【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 羽倉 礼拝: 齋藤長老  
献金: 栗原 小岩 受付: 鈴木 橋本  
会堂準備: 幼稚園  
看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

## 【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会  
礼拝後: ・大掃除 ・壮年会/婦人会/ダビデ会

2024年 6月 2日

日本キリスト教団 上尾合同教会  
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33  
TEL&FAX 048-771-6549  
<http://www.ageo-church.org/>